

Title	企業のセキュリティ対策における問題点：行動経済学から見たセキュリティ意識の実態分析
Author(s)	金, 楨蘭
Citation	年次学術大会講演要旨集, 24: 798-799
Issue Date	2009-10-24
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/8747
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	一般講演要旨

企業のセキュリティ対策における問題点 —行動経済学から見たセキュリティ意識の実態分析—

○金楨蘭（早稲田大学）

本研究においては、技術経営や産学連携の研究手法として有益と考えられる行動経済学の手法を使って、従業員のセキュリティ意識の実態分析を通じ、企業のセキュリティ対策における問題点を明らかにすることを試みた。

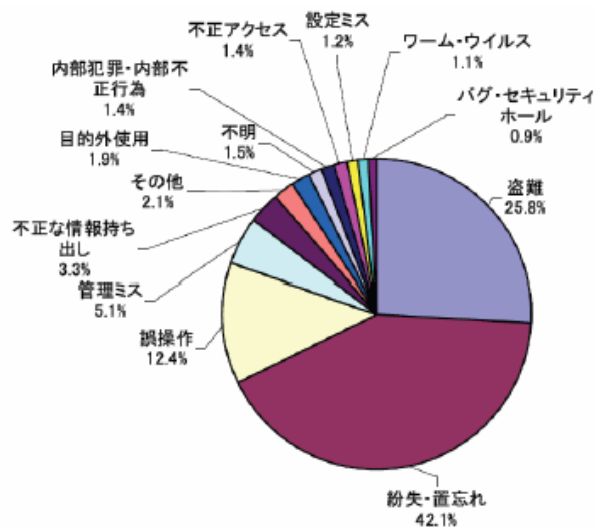
1. はじめに

1-1 セキュリティ対策の現状

世界同時不況の影響もあり、2009 年は大手企業を中心にセキュリティ対策への投資を抑制する傾向がある。それでも、投資額は年々増加しており、7 割弱の企業が 2008 年と同程度で、2 割弱が増額する(*1)。

しかし、情報セキュリティに関する事件・事故は減少していない。過去 1 年間に情報セキュリティに関する事件・事故が発生した企業の割合は、2006 年の 58.6%から 69.6%と 10 ポイント以上増加している(*2)。特に、企業の大半を占める中小企業では、セキュリティ対策の実施状況とセキュリティに対する認識が十分でない。

主な被害要因は紛失、盗難、過失、内部犯、外部の不正者、ウイルスに大別される。中でも紛失、盗難、過失の占める割合が非常に大きい(図 1 参照)。



出展：日本セキュリティ協会 JNSA、「個人情報漏洩原因の件数報告 2006」

図 1 個人情報漏洩原因の件数報告

1-2 従業員の情報セキュリティ意識

セキュリティ対策は行っているものの、その対策基準やレベルが分からないまま実施している企業が多い。また、従業員が情報セキュリティの重要性を正しく認識していない実態もあり、従業員のセキュリティ意識をいかにして高めるかが企業にとって深刻な課題となっている。

2. 研究の目的と方法

2-1 情報セキュリティ対策の限界

企業は、組織・体制や技術的な面で、様々なセキュリティ対策を行っている。しかし、従業員の意識が変わらない限りその効果には限界がある。従業員の意識、すなわち人間の心理的な側面を分析し、それに合った効果的なセキュリティ対策が必要である。

2-2 行動経済学からのアプローチ

近年、経済学の世界では合理的経済人を想定した従来の枠組みから、より人間心理的な側面を重視した行動経済学が発展している。行動経済学では、実験によって実証された事実を基に、人間の感情の動きを見て効果を考える。

これまでの情報セキュリティに関する研究論文は、技術をベースにしたものが多い。また、人間のセキュリティ意識を扱う論文もあるが、様々な心理的な概念を使った分析に止まり、具体的な対策まで繋がっていない内容が多い。

そこで、本研究では、実際にあったセキュリティ事故・事件を通して、行動経済学を用いて人間の心理的な側面を分析し、具体的なセキュリティ対策に応用する方法を提案する。

3. 本研究結果に期待する効果

セキュリティ事故・事件のほとんどの原因が人間の過失によるものだが、セキュリティ規則の強化や技術的対策だけで解決することは困難である。情報流出事故を防止するために、ファイルを暗号化する高額なシステムを導入したとしても、それを使う従業員の意識が変わらなければ効果は十分に発揮されない。これまで、人間の過失やミスが原因となる問題については、解決できない問題として後回しにされてきたが、事故・事件の増加を食い止めるためには避けては通れない課題である。教育・訓練・周知等の効果を高め、継続的な対策を実践することが重要である。ただ実践するだけではなく、人間がどのように考え行動するのかという視点で方法論を研究していくことが求められている。

人間の心理的な側面を分析して、それに合わせた体制整備や教育方針、システム設計を行わなければならない。行動経済学を通して人間の心理を分析し、セキュリティ対策に掛かる無駄な経費を減らすことによって、会社全体の経営コスト削減に繋がることが期待される。

参考文献(*)

- 1 NRI セキュアテクノロジーズ、「2008 年 国内における 情報セキュリティ事象被害状況調査」
- 2 NRI セキュアテクノロジーズ、「企業における情報セキュリティ実態調査 2007」
- 3 情報処理推進機構報告、「中小企業の情報セキュリティ対策確認入手に関する実態調査 2008/04」
- 4 韓国中小企業庁、2008 中小企業情報化水準評価研究報告書
- 5 日本セキュリティ協会 JNSA、「個人情報漏洩原因の件数報告 2006」
- 6 富士通総研(FRI) 経済研究所、「情報セキュリティと組織感情、Enterprise 2.0 2009」
- 7 韓国中小企業調査統計システム「2008 年 中小企業情報化水準評価調査 2009/02」
- 8 読売 AD リポート、「行動経済学は消費者をどう見ているか」 友野典男 <http://adv.yomiuri.co.jp/ojo/02number/200807/07toku2.php>
- 9 土井智朗、内田勝池、「情報セキュリティ意識向上にむけた効果的なリスクアセスメント手法の提案」、情報処理学会 2008 年
- 10 竹村敏彦、箴島専、「日本の情報セキュリティ対策・政策に関する現状と問題について」、早稲田大学 2008 年
- 11 古川雅一、「わかっちゃいるけど、痩せられないーメタボの行動経済学」、NHK 出版 生活人新書 2008 年
- 12 柏木吉基、「人は勘定より感情で決める」、技術評論社 2009 年
- 13 内田勝也、「情報セキュリティ心理学とトラストの動向について」、情報セキュリティ大学院大学 2008 年
- 14 内田勝也、矢竹清一郎、森貴男、山口健太郎、東華枝「情報セキュリティ心理学の提言」、情報セキュリティ大学院大学 2007 年